

# 男女共同参画推進の新体制が発足しました

男女共同参画推進センターは、平成29年度から新たに坂口けさみ学術研究院保健学系教授/学長補佐をセンター長として、これまで長野(教育)キャンパスと松本キャンパスに分散していた本部機能を松本に集約させ、松本キャンパスを中心に、隔地キャンパスに設置した分室機能はそのままに新たな男女共同参画推進の体制を発足させました。今後もキャンパス間で支援に違いが生じないように、随時ニーズ調査を行うなどし、全構成員が働きやすい職場環境の整備を進めてまいります。

## センター長あいさつ



男女共同参画  
推進センター長  
(学術研究院保健学系教授)  
さかぐち  
坂口 けさみ

平成29年4月1日に信州大学男女共同参画推進センター長を拝命致しました。本学における男女共同参画推進に向けて、教職員、学生など全ての構成員がその人らしく生き生きと活躍できる環境づくりをめざして、精一杯取り組んで参りたいと思います。

信州大学における男女共同参画推進の経緯をみますと、平成23年に文部科学省科学技術人材育成費補助事業による女性研究者研究活動支援事業が採択され、平成23年10月に、はじめて教育学部に女性研究者支援室が設置されました。その後平成26年には女性研究者支援室は男女共同参画推進室に、平成28年には信州大学男女共同参画推進センターに改組されました。そして平成29年4月には、信州大学男女共同参画推進センターが、教育学部から松本キャンパスに移管されました。これを機に、本学全体での働きやすい職場環境づくり、男女共同参画推進に向けた意識啓発や女性研究者支援事業等についても更に充実できるよう取り組んで参りたいと思います。皆様の一層のご支援とご協力を何とぞよろしくお願い致します。

## 実施体制



### 意識啓発部門の実施事業内容

- 男女共同参画に関する授業の充実
- 啓発セミナー等の開催
- オープンキャンパス時の啓発活動
- ニュースレター等の発行
- ウェブサイトによる情報発信

### 女性研究者等支援部門の実施事業内容

- 研究補助者制度の実施
- メンター制度の普及
- 育児休業者に対する業績評価の取扱
- 人材育成のための研修実施

### ワーク・ライフ・バランス推進部門の実施事業内容

- 時間外労働の縮減
- 年次休暇の取得促進
- 育児休業、介護休業、短時間勤務制度等の利用促進
- 入学試験等における一時保育等の実施

# 平成29年度男女共同参画推進センター運営委員会名簿

役職名等	氏名
理事（総務担当）	山田 総一郎
学術研究院保健学系教授 男女共同参画推進センター長	坂口 けさみ
学術研究院保健学系教授 男女共同参画推進センター 副センター長	深澤 佳代子
学術研究院人文科学系准教授	花崎 美紀
学術研究院教育学系教授	高橋 知音
学術研究院社会科学系准教授	関 利恵子
学術研究院理学系准教授	中島 美帆
学術研究院医学系助教	藤田 佳子
学術研究院工学系准教授	番場 教子
学術研究院農学系教授	大窪 久美子
学術研究院繊維学系教授	志田 敏夫
学術研究院総合人間科学系准教授	兼元 美友
学術研究院医学系講師	中山 佳子
人文学部副事務長	佐々木 千加子
教育学部総務グループ主査	丸山 勇樹
医学部附属病院看護部副看護師長	野瀬 貴可
男女共同参画推進センター コーディネーター	長坂 智恵子
総務部長	大森 浩之
総務部人事課長	古橋 良幸

## 新委員のご紹介



学術研究院保健学系 教授  
男女共同参画推進センター副センター長 深澤 佳代子

他大学でも「大学の研究者の現状とワーク・ライフ・バランス」、育児に限らず「介護と仕事の両立」等々の課題があるようです。知見を深めつつ、少しでも働きやすい環境整備の一助となれる様努めたいと思います。宜しくお願い致します。



学術研究院医学系 講師（医学部附属病院）中山 佳子

男性も女性も個々の能力を發揮し、ワーク・ライフ・バランスを考慮しながら、共に快く働ける環境を維持できるよう活動して参ります。



人文学部 副事務長 佐々木 千加子

信州大学が男女の別に関係なく働きやすく学びやすい大学であるために、微力ですが取り組んでいければと思います。どうぞよろしくお祈りします。



教育学部総務グループ 主査 丸山 勇樹

全学的な男女共同参画推進業務に携わるのは初めてなのですが、性別にとらわれず、個人の能力が發揮できる職場づくりを推進したいと考えています。



男女共同参画推進センター コーディネーター 長坂 智恵子

男女問わず、みなさんがイキイキ働けるお手伝いができればと思います。早く慣れるため、日々学内を散歩する日々です。見かけたら気軽に声をかけてください。



総務部人事課長 古橋 良幸

男女共同参画社会の実現のため、少しでもお役に立てるよう努めてまいりたいと思いますので、よろしくお祈りいたします。

## 女性活躍推進法に基づく情報の公表

女性活躍推進法に基づき以下の情報を公表致します。

### 1. 採用した労働者に占める女性労働者の割合

		平成 28 年度実績	平成 27 年度実績
常勤職員	教員	23.5%	25.9%
	事務系職員	39.0%	29.4%
	医療技術系職員	55.2%	54.6%
	看護職員	87.5%	83.2%
非常勤職員	有期雇用職員	74.5%	57.7%
	短時間雇用職員	79.5%	82.1%
	医員・研修医	27.3%	24.3%
	研究支援推進員	53.1%	65.8%
	研究員	17.2%	24.4%
	シニア雇用職員	37.5%	57.1%
常勤職員・非常勤職員合計		50.9%	50.9%

### 2. 管理職に占める女性労働者の割合

基準日	管理職数	うち女性数	女性比率
平成 29 年 4 月 1 日現在	124 人	16 人	12.9%
平成 28 年 4 月 1 日現在	119 人	12 人	10.1%

### 3. 役員に占める女性労働者の割合（平成 29 年 4 月 1 日時点）

22.2%（2人）（役員総数 9人）

なお、本学の女性活躍推進に関する情報は、男女共同参画推進センターウェブサイト（<http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/>）および厚生労働省「女性の活躍推進企業データベース」でも公開しています。



## 共通教育

### 「キャリアビジョンと男女共同参画：誰もが輝く社会を考える」が開講しました！

平成 29 年 4 月 12 日、松岡英子信州大学名誉教授の講義を皮切りに、毎週水曜日 5 限目に男女共同参画の講義が開講しました。平成 28 年度に 3 日間にわたって開講された集中講義をさらに充実させて 11 名の先生が 15 回に渡り、バトンをつなぎます。

第 1 回講義では男女共同参画の歴史に触れながら、「ジェンダーバイアス」という言葉の説明があり、初めて触れる言葉に戸惑いながらも自分自身、自分の家族のことに立ち返って考える学生の姿が見られました。

今後の講義を通して、学生が「男女共同参画」の視点・意識を持って、将来の自分の生き方、キャリアデザインを捉えるきっかけになれば、と期待しています。



第 1 回、第 2 回講義担当  
松岡英子信州大学名誉教授



# 経法学部長 理学部長 医学部長 医学部附属病院長 インタビュー

平成28年10月1日付で新しく医学部長に就任された田中先生、平成29年2月1日付で経法学部長に就任された山沖先生、平成29年4月1日付で理学部長に就任された市野先生、医学部附属病院長に就任された本田先生にそれぞれの部局での男女共同参画やこれからの課題について坂口男女共同参画推進センター長がインタビューしました。

各部局における現状と課題をお伺いしました。  
質問項目は以下の2点です。

- Q1. 各部局における現状について
- Q2. 今後の課題について

## 経法 学部



やまおき よしかず  
山沖 義和  
経法学部長

**1** 経法学部は、以前は女性の教員が極めて少ないというイメージがありましたが、現在は学生の男女比も変化してきており、女性が当たり前前に教員を目指す環境になりつつあります。同等の能力があれば女性を採用するポジティブアクションはとっていますが、それ以外にも男女共同参画の土壌が出来つつあると感じています。

子どもを含めて家族で経法学部で働く方も多いです。同じ研究内容だからと一方が離れて働く例もありますが、首都圏に人材を提供するのではなく、本学に残って働いてもらうという意味は大きいと思います。

**2** 本学は県外出身者が多く、子育てへのサポートが得にくい問題があります。子育てはどうしても女性の負担が大きくなりますが、少しでも男性が分担するということが大きな転換となります。

育休取得の推進については、本人が希望するかどうかではありますが、要望には対応していきたいと考えており、最近では結構働きやすくなってきていると思います。あとはいかにオープンに相談しやすい環境にするかではないでしょうか。そのために自分は学部長室から出て教職員や学生といろんな話をして情報を集めることにしています。

## 理 学部



いちの たかお  
市野 隆雄  
理学部長

**1** 現在、理学部の全教員63名のうち、女性教員は5名で、まだまだ人数は少ないのですが、最近少しずつ増えてきました。今後さらに改善していくためには、同等の能力を有する候補者がいる場合には女性を採用するポジティブアクションを継続して進めるなどが必要です。また、男女を問わず、育児や介護期間中に研究補助者制度を利用する方がおられたりすると、学科コースごとに行う会議を昼休みにするなど、いろいろな面で雰囲気が変わってきます。ひとりひとりの意識と職場環境の両方を変えていく必要を感じています。

**2** 本来は自然科学への興味に性差はなく、自然の不思議を感じる心やワクワクする気持ちは誰にでもあります。その気持ちをいかに育んでいけるかが大学教育に問われていると思います。大学としては、理系学問の楽しさを幅広い年代の人たちに伝えると共に、科学研究に対して女性に無用のハードルを感じさせないようなアプローチが求められていると考えています。現在、事務職員の育児休暇は少しずつ浸透してきていますが、今後は教員に対しても研究補助者制度の利用などを積極的にアナウンスしながら、育児や介護休暇の取得がしやすくなるように努めていきたいと思っています。

## 医 学部

**1** 医学部では職員を雇うときに、同じ条件であれば女性を採用するというポジティブアクションをとっていますが、それに対する反発も徐々に減り、理解されつつあると感じます。教育の責務は増える中、教員は増えず、学生は増えている状況があり、医学部全体の過重労働が課題であります。遅くまで働く男性に比べ、女性は意欲はあっても実際に帰らざるを得ない状況があり、昇格についてもそこがネックになるので、保育園など子どもを安心して預かってもらえる環境が必要であると感じています。

**2** 会議の開催時間については省略できるものが少ない中ではありますが、自分に関わるもので、必要ないと思えば短くするようにしています。しっかり時間を取る会議と区別してメリハリをつける必要があります。

女性が救急などに対応するために、小児科ではチームを組んで時間のやりくりをしています。そういった取り組みや、女性の働き方について、女子学生に情報提供していくことも今後は必要になってくるのではないのでしょうか。



たなか えいじ  
田中 榮司  
医学部長

## 医 学部附属病院

**1** 病院は看護師を中心に女性の多い職場で、育児休業や短時間勤務を利用される方も多くなっています。また、男性職員において休みを取って子どもの行事に参加しやすい土壌もできつつあるように思います。病院は、女性が働きやすい職場にならなければなりません。病院職員は緊急対応が求められることも多いので、チームを組んでお互いに補い合う勤務体制を組む必要があります。

**2** 医師は、医局や研究室など自己研鑽が行える環境が整っています。一方、メディカルスタッフ、特に看護師さんの環境は十分とはいえません。研究、学習を行いたくても自由に行える場所がありません。病棟を離れて、患者資料を作成したり、専門書を開いたり、同僚とディスカッションできるスペースが必要だと思います。自らの裁量下で行うことができる環境が、各自のさらなるステップアップのために重要と考えます。



ほんだ たかゆき  
本田 孝行  
医学部附属病院長

## ■平成29年度ベビーシッター派遣事業割引券の配付を開始しました。

内閣府で実施し、公益社団法人全国保育サービス協会が運営する「ベビーシッター派遣事業割引券」の平成29年度分の配付を開始しました。利用をご希望の教職員は、申込書に必要事項を記入のうえ、男女共同参画推進センターまでご提出ください。

申込書はこちら <http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/support/babysitter.html>

## ■イクボス宣言を更新しました。

平成29年4月の人事異動に伴い、イクボス宣言を更新しました。宣言内容は男女共同参画推進センターのウェブサイトからご覧ください。

<http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/iku-boss/index.html>



## ■平成29年度(4-9月期)研究補助者制度の利用者が決定しました。

男女共同参画推進センターでは出産・育児・介護等で研究時間の確保が困難な研究者に対し、研究時間を確保し、研究を維持・促進することを目的に学生等を研究補助者として配置しています。平成29年度(4-9月期)も希望者を募集し、厳正な審査のうえ利用者を決定いたしました。

**選考結果** 利用者12名(女性12名、男性0名)



### 利用者の声(平成28年度(10-3月期)実績報告書より抜粋)

この支援を受け始めてから明らかに業績が増え、近年は毎年業績を増やすことが出来ている。若い女性研究者が増えてきたこともあり、育児との両立などで研究時間が確保できない研究者に対するサポートとして今後も必要な支援だと思う。



このコラムは、本学で子育てをしながらお仕事されている教職員の方に、日頃の育児の様子をご紹介いただくコーナーです。

約2年前に、大学本部から附属病院の現職へ異動となり、帰宅時間が遅くなりました。そのため、平日はなかなか、家族と



一緒に過ごすことができません。朝ご飯を一緒に食べることで、仕上げの歯磨きをすること、一緒にゴミ出しをすることが私と長男の日課です。次男は、まだ寝ていることが多く、平日はすれ違いになっています。そのため、休日に見ると、はいはいが早くなっていたり、つかまり立ちが上手になっていたり、成長の速さに驚きます。

私の帰宅が遅いので、長男は夜寂しくなると父と母に甘えています。

しらき やすひろ  
**白木 康浩** 主査 | 医学部附属病院  
経営管理課 契約係



### 家族構成

妻・長男(5歳)・次男(1歳)・父・母

### お子様からの呼ばれ方

おとうさん  
(2歳位までは「とーと」って呼ばれていました。)

助かる反面、一緒にいられないことが寂しくもあります。業務効率化を高めて早く帰宅したいと思います。

また、妻の育児休業が5月末日までのため、1年間楽をしていた家事を頑張ることが私の今の課題です。

6月より生活環境が変わりますが、一層、家庭と仕事の両立を心がけていきたいと思っています。



### 今回はこの方!

**加藤 沢子** 先生

医学部附属病院 卒後臨床研修センター助教(診療)

お問い合わせ

信州大学 男女共同参画推進センター (SuFRE)

〒390-8621 松本市旭 3-1-1  
内線 811-2150, 811-2140  
TEL 0263-37-3150 FAX 0263-37-3314  
mail sufre@shinshu-u.ac.jp

スフレ

信州大学 スフレ

検索



教育学部分室  
〒380-8544  
長野市西長野 6-口  
内線 831-4018

工学部分室  
〒380-8533  
長野市若里 4-17-1  
内線 821-5693

農学部分室  
〒399-4598  
上伊那郡南箕輪村 8304  
内線 851-3120

繊維学部分室  
〒386-8567  
上田市常田 3-15-1  
内線 841-5358